

よく遊び じっくり学び 正しく選ぶ 子



緑小だより 3月号

令和7年2月28日（金）

茅ヶ崎市立緑が浜小学校
校長 菅野 康一

【ゆずり葉のころろ②】

1月が「いき」、2月が「にげ」、「さる」3月がやってきます。雪雲はさり、暖かい春が訪れます。3月19日の卒業式を以って6年生は緑が浜小学校をさり、4月8日の入学式にはピカピカの新1年生が入学してきます。

さて、昨年に続き「**ゆずり葉のころろ**」という話をします。この木についての詩が、以前6年生の教科書に載っていましたが、今は載っていません。6年生がちょうど今頃に学習する詩でした。この木の特徴は「古い葉と新しい葉とが交代する」ということで、冬の間中、寒さにじっと耐えて枝に付いているのですが、暖かくなった春が巡ってくると、葉がぼろりと落ちるのです。そして、その落ちた葉の後には、次に出てくる若芽がちゃんと育っているのです。この古い葉は、冬の寒さから若芽を守って自分の役割を終えて去っていくのです。その姿が自分の命を次にゆずっていくことから「**ゆずり葉**」と名付けられたのです。

このゆずり葉の姿は、卒業していく子どもたちと似ています。卒業式では、最上級生という立場が、6年生から5年生へとバトンタッチされます。まさに「ゆずり葉」です。6年生は、5年生が緑が浜小学校を受け継いでいける

よう1年間、本当に素晴らしい活動をしてくれて、私たちに「夢と希望」を与えてくれました。それが6年生の「思いやりの心」なのです。5年生は、ちょうどこのゆずり葉のように6年生に大事に守ってもらいながら十分に育った若い芽です。

今の5年生は、新しい5年生のために。今の4年生は、新しい4年生のために。今の3年生は、新しい3年生のために。今の2年生は、新しい2年生のために。そして、今の1年生は、緑が浜小学校に入学してくる新しい1年生のために。

今までにいろいろ学んだこと、考えたことをゆずって、次の学年に心をつないでいてほしいと思います。

また、この「**ゆずり葉のころろ**」は、学校だけでなく子どもたち一人一人のご家庭でも同じです。保護者の皆様、いつでも「ゆずり葉と同じような思い」を持って子どもたちを見守ってくださり、本当にありがとうございます。

子どもたちも保護者の皆様から、そしてお兄さんやお姉さんからいろいろなことを学び、ぜひ自分も次の人に心をつないでいける人になってほしいと思います。

さて、保護者の皆様にご協力いただきました「令和6年度学校教育診断」の結果を分析いたしましたので、概要をご報告させていただきます。

まず、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」を合わせたものが80%以上の肯定的な項目をお知らせします。

【保護者アンケート】

- 学校は子どもたちにとって、有意義な学校行事になるように計画・実施している
- 学校は学校の様子を授業参観や個別懇談、各便り等で積極的に伝えている
- 家庭への知らせ「緑っ子」は、学習状況や生活の様子が分かりやすく、よく伝わる
- 家庭では、お子さんと興味あることについて話したり取り組んだりしている
- 家庭では、学習のために情報機器を活用する環境が整っている
- 家庭では、「早寝早起き朝ごはん」など健康的な生活を送るように努めている
- 家庭では、お子さんとのコミュニケーションを大事にしている

【児童アンケート】

- 学校行事が楽しみである
- 先生や友達の話をよく聞いている
- 地震・火事・不審者対策などの時にどのように対応したら良いか知っている

次は、学校として、所感も併せてお伝えいたします。

【保護者アンケートより】

- ▽「学校は、宿題を含めた家庭学習の習慣化に取り組んでいる」
(81%)→73%
※「わからない」も10%増えています。タブレットからの宿題など、具体

的なイメージがしにくいものもあるのではないかと考えられるので、懇談会や学級だよりなどで発信し、習慣化についても説明をして、児童に伝えていきます。

- 「ご家庭では、お子さんと興味あることについて話したり、取り組んでいる」
(87.3%)→91.7%
※学習と生活が結びついてきていることを示していると考えられます。
- 「学校は、お子さんが読書に親しむ機会を設けようとしている」
(56.8%)→61.5%
※図書室の利用を増やしていることも関係していると考えられます。
- 「学校は、子どもや保護者の悩みや相談に丁寧に対応している」
(67.8%)→77%
※学校としては、本年度の大きな課題ととらえており、教育相談等を通して、子どもたちや保護者の皆様の悩みや相談に引き続き、丁寧に対応していきたいと思います。
- 「家庭で、地震が起きた時の避難場所を話し合っている」
(52%)→64.7%
※能登半島地震を教訓にして、学校からのよびかけをした学級もあり、引き続き防災意識を高めていきます。

【児童アンケートより】

- ▽「「緑っ子」を見て、次の学期や学年で頑張ろうという気持ちになれる」
(79.2%)→77.1%
※前年度より「全くあてはまらない」は1%下がっています。B（できる）の意味を改めてお伝えさせていただきますと、目標に照らして、おおむね満足できる状況にある場合はB（できる）評

価になります。文部科学省が定める学習指導要領の目標を達成している状況で、学校では子どもたちがこの「できる」の状況になることを目指して日々授業改善を行っています。また具体的に A 評価になる児童の発言などに着目させながら、自分がどのようにすれば向上するかを一緒に考え、子どもたちに授業のめあてを十分に意識させながら、“B(O)でいいんだよ！”と子どもたちが自信をもって言えるように取り組んでいきたいと思えます。

- ▽「相手の気持ちになって考え、行動しようとしている」(80.2%)→76.3%
「生活目標を意識して生活している」(78.9%)→71.8%

※生活習慣を意識づけしながら、道徳の授業、特別活動等を通して、改めて全校児童に伝えながら指導をしていきます。